

令和7年度第1回呉市総合計画審議会 摘録

- 1 日時：令和7年5月19日（月）16時00分～19時00分
- 2 場所：呉市役所2階 201～203会議室（オンライン併用）

1 市長挨拶

本日は、皆様の貴重なお時間を割いて、呉市総合計画審議会へご出席頂きまして、本当にありがとうございます。

本市におきましては、令和3年度から「第5次呉市長期総合計画」の計画期間がスタートしました。今年度、令和7年度は前期基本計画の最終年度となります。

今年度の予算でございますけれども、資料4をお願いいたします。これは私が7年度の当初予算について記者発表し、市民の方に見て頂くための資料でございます。特に6ページを見て頂きたいのですが、私の今年の予算編成は、“世界一魅力的な「呉」を目指して～若者を惹きつけるまちへ～”をテーマとして行いました。

もちろん日常的な生活で、子育て世代の方や高齢者の方とか、みんなが幸せに暮らせるようにという福祉的な施策は当然十分実施した上で、若者を惹きつけるまちにしていけないといけないということで、日本製鉄の広大な跡地を呉の未来へつなげるための取組やアジアにおける教育・研究の拠点形成を目指した「海洋文化都市くれ」の推進、さらには、ディスコなど世界最先端の企業立地の促進を進めてまいります。ディスコが立地することは決まっておりますが、呉でより多く操業してもらうようにということでございます。それ以外の企業の進出も決まっております。スポーツ施設を移転させるため、陸上競技場などスポーツ施設の再整備を進めていくこととしております。また、世界的な海事博物館を目指した大和ミュージアムのリニューアル、5月16日にイギリスの王立空軍博物館と連携協定をロンドンで締結しました。

呉駅周辺地域総合開発におけるバスタプロジェクト、音戸の瀬戸公園の再整備と外資系ラグジュアリーホテルの進出もあり、音戸の瀬戸公園を市民にとっても素晴らしい公園に整備していきます。天応地区へのアーバンスポーツ施設の整備など、こういった世界一を目指した取組をしていきたいと考えております。

先日大きく報道されましたけれども、令和6年3月末の呉市の人口が20万人を下回ることになりました。3月末の移動が少し多かったので、ここで20万人を下回ってしまいました。4月17日に呉市人口戦略対策本部を設置し、今後は全庁をあげて戦略的に人口減少対策に取り組むこととしております。

先ほども申し上げました、今年度は前期が終わります最後の年ですので、来年度の令和8年度から12年度まで5年間の計画期間の後期基本計画を策定しなければなりません。今日は委員の皆様からこの点についても提言や意見を頂きたいと思っております。

それから8年度の事業、単年度の事業につきましても、どういう予算でどういう事業をしたらよいのか、皆様のご意見をお伺いしたいと思っております。今後の呉市の施策に活かしていきたいので、できるだけ良い呉市の計画、呉市の良さをつ

くっていただきたいと思います。市民から無作為で抽出させて頂いた委員の皆様が日々の生活の中で感じていること、本当に思ったことをそのまま言って頂ければ大変参考になりますので、どうぞよろしくご発言をお願いします。以上でございます。ありがとうございます。

2 会長挨拶

今年度は、先ほど新原市長が言われたように、呉市長期総合計画後期基本計画の策定に向けた本格的な議論を、今日から進めていきたいと思っております。

委員の皆様には、基本構想に掲げる呉市の将来都市像の実現に向けて、後半の5年間で何をしていくべきかについて、ぜひ積極的なご意見、専門的な立場あるいは市民の目線でのご意見など、いろいろ頂ければと思います。

皆様の協力によりまして、長丁場ですが円滑に進めたいと思っておりますので、ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

3 議題1：第5次呉市長期総合計画 後期基本計画の策定について

【資料1から資料3に基づき、事務局から概要説明】

(1) 委員からの意見・提言等

【新原市長】

- 改めて資料を読むと、資料1の3ページ「施策推進のための横断的な視点の見直し」について、人口減少対策の箇所「若者施策の推進」とあるが、その他の箇所の書きぶりを見比べると「女性」という言葉も加えるべきではと思うがいかがか。

【若野委員】

- 女性委員として発言させていただくが、市長のご指摘のとおり、人口減少対策を進めるに当たっては子どもを増やすことが重要であり、その背景には女性がいるということを踏まえて、素案の策定に当たっては「女性」という言葉を付け加えていただきたい。

【睦委員】

- 施策推進のための横断的な視点について、「様々な危機への対応と将来のリスクへの備え」という記載は抽象的であり、イメージがつかめない。

【事務局】

- 前期基本計画においては、平成30年の豪雨災害、新型コロナウイルスの感染症拡大、経済的な問題への対応などを想定し、横断的な視点を持ちいずれの分野でも取組を進めてきた。後期基本計画においても同様の取組を進めたいと考えているものである。抽象的でイメージが付きにくいということであれば、括弧書きをするな

ど記載方法を検討する。

【三島委員】

- 地域振興の推進のための横断的な視点について、広島県の取組と関連して発言したい。広島県においても、社会動態、人口の年齢構成の改善に向け、市や町の方々とアイデア段階から一体的に取り組んでいくプロジェクトを立ち上げることにしている。昨年度、県で実施した若年層の社会減少要因調査分析や、呉市地域の実態を踏まえ、実行性のある対策の検討に向け、呉市とともに取り組んでまいりたい。

【渡辺委員】

- 施策推進のための横断的な視点のうち、この度見直しを行う“市民や企業、高等教育機関など多様な主体との取組の推進”について、非常にグローバルな視点での取組であると感じる。長期総合計画において設定されている各政策分野において、多様な主体との取組の推進というのは具体的に何を指すのか。

【事務局】

- これまで取り組んできた大学や地域企業との連携に加え、新たに国際的な観点から取組を行っているTown & Gown構想などが該当すると考えている。こういったローカルな部分での取組を施策に盛り込んでいきたいと考えている。現時点で新たに何を加えるということはお答えしかねるが、後期基本計画の策定に当たって、関係部局と協議のうえ、必要な施策を追加する予定である。

【田中委員】

- 政策分野6の都市基盤分野について、呉市の中心部ではまちづくりに関する様々な取組が進んでいると認識している。これからもそういった取組が進んでいくものと認識しているが、これらの取組を統合していくに当たり、呉市の中心市街地がどういった方向へ向かっていくべきか、という点についてビジョンを描けると良いと考える。

【伊藤委員】

- 政策分野3の市民生活・防災分野について、呉市に在住している外国籍市民は約4千人となり、呉市の人口の2%を超えた。彼らの多くは呉市の産業を担ってくれている人材であり、とても大事な方々であると認識している。外国人市民の方々から、呉市はとても暮らしやすい良いところだという話を聞く一方で、働く環境に関しては様々な不満があるとも聞いている。定住する方が増え、呉市を故郷とする子どもも増えていると実感している。是非、彼らの意見や要望を積極的に吸い上げ、環境の改善に努めていただきたい。

【畦委員】

- 政策分野5の産業分野について、呉市から企業が撤退したことにより、その協力

企業や下請け企業の仕事が大きく減少した。自身の本業は運送業だが、撤退に起因して廃業した企業もいくらか存在している。幸いディスコが拡大するという話が進んでいるが、その一社だけを頼りにするのではなく、企業の誘致に積極的に取り組む施策があれば良いと考えている。働く場が無ければ人口減少という問題は避けられないため、若者や女性に限定することなく、とにかく働く場を増やすための政策展開を行うべきである。

【大田委員】

- 資料では若者や女性にとってのみ働きやすい環境を整備するよう見受けられるが、それ以外の若くない方々や男性にとって働きやすい環境を作ることも、相互フォローを行うことができる環境づくりをするという観点で重要な部分であることから、年齢や性別に関わらず全ての方々が働きやすい環境を作っていただきたい。

【岡村委員】

- 自身が所属する広島県観光連盟は、県全体の観光振興ということで、プロモーションや観光商品開発、受入環境整備などに幅広く取り組んでいる。県職員の派遣をメインにしつつ、プロパー職員も増やし、徐々に規模を拡大しているところであるが、地域の様々な事業者や観光協会、行政との連携は欠かせないものである。この度ツーリズムKUREが立ち上がったということで、是非我々とも連携し、ともに呉市の経済を観光という面から活性化させていきたいと考えている。
- その中で、ツーリズムKUREを中心とした呉市の観光ブランドの形成、確立に向けて、行政とはどのように役割分担をしていく予定なのかを知りたい。
- また、大和ミュージアムのリニューアルに取り組んでいるところだが、観光施設の老朽化に伴う維持管理対策について、どのような方針があるのかなどについても伺いたい。

【事務局】

- ツーリズムKUREとの役割分担について、呉市が主に担うべき役割としては、令和3年9月に策定した呉市観光振興計画の進行管理や、観光施設の整備や指定管理者制度の活用も含めた施設の維持管理、公共機関と連携した誘客ソフト事業などを担っていく予定である。一方で、ツーリズムKUREの役割としては、観光データを集積及び分析し、効果的に共有・活用していく仕組みの構築であったり、観光ブランドのメッセージの策定や戦略の策定を担う。更に、呉市の認知度向上や観光商品の販売に繋がるプロモーションや情報発信、観光コンテンツ造成に係る事業者支援などを担う予定であり、お互いに連携し協力をしながら取組を進めることとしている。
- 観光施設に特化した維持管理対策に関する取組方針は定めていないが、呉市が令和3年に策定した個別施設計画に則り、維持管理及び集約化を進めることとしている。例えば、野呂山山頂の施設については、令和11年の集約化に向けて、国や県、地元と呉市が一体となって施設のあり方等について検討を行っているところで

ある。また、観光客のニーズに合わせてトイレの整備や駐車場の整備を行っており、今後も必要に応じてアップデートしていきたいと考えている。

【小倉委員】

- 政策分野7の基本政策「環境の保全」について、こちらはプラスチックの分別回収に関連するが、循環型社会の促進という観点からしっかりと取り組んでいくべきだと考えているので、分別作業で大きく影響を受ける市民に対してしっかりと啓発広報を行っていただきたい。
- 資料3の15ページに記載している、政策分野5の農業の参加者が不足しているという点について、農業を始める意欲を持っている方は一定数存在するが、参入障壁が高いことを理由に諦めている方がいるのではないだろうか。一方で、農業を辞めるに当たり、農地や水路などの取扱いに苦慮している方もいるだろうと考えている。そういった方々をマッチングさせる取組があれば、農業従事者を継続的に確保することに繋がると考える。
- 資料3の9ページに令和7年1月からLINEのセグメント配信機能を活用しているという記載があるが、こちらはどのような情報発信をしているのか伺いたい。

【事務局】

- 呉市のLINEは市が主催するイベントや市の制度、大雨時の避難所情報、道路交通情報等について配信を行っている。これは登録を行っている方全てに一律で配信しているのだが、一律に配信していることが原因で関心の無い情報の中に本来知りたい情報が埋もれてしまうという実態があったため、設定によって本当に欲しい情報のみ配信されるようなシステムを導入しており、これをセグメントと呼んでいる。現在は4つの項目（①子ども向けのイベントや保育園等の入園案内など子育て世帯向けの情報、②一般向けの講座や教室の情報、③健康に関する高齢者向けの情報、④事業者や起業を検討している方向けの情報）についてセグメント設定することができる。

【海堀委員】

- 政策分野3の市民生活・防災分野について、防災に係る様々な施策について見直しを行うという点については非常に良いことだが、防災において最も重要なことは災害が発生した際に助け合うことができるよう地域の環境を整えることである。近隣の居住者と普段からコミュニケーションを取ることを推進することができる施策があれば良いと思う。
- 政策分野6の都市基盤分野について、道路の整備とあるが、落石や土砂崩れが発生した際に通行止めになったことがあったので、主要道路については代替ルートについて整理を行うことも道路の整備と併せて行うと良い。

【三條委員】

- 後期計画期間においても様々な公共施設の改修や整備を行うと思うが、障害を持

つ方や高齢の方にも配慮した施設作りを心がけていただきたい。

【神田委員】

- 前期基本計画を策定した当時と比較して、呉市が変わるという言葉の指すところがポジティブなものになっているように感じている。この点は現在の呉市の強みといえる部分であるため、そのニュアンスを今後のまとめ全体の中ですべて出してほしい。
- 政策分野6の都市基盤分野について、呉駅前が開発が完了すると、様々な方面に波及があり、民間開発を誘発することにも繋がると考えている。中心部としてのまちづくりについては一つの施策として取り扱っても良い、それくらい重要な事だと考えているので、その点を踏まえた取りまとめを行って欲しい。
- 中心部だけではなく、その周辺地域についても人口減少等を踏まえて施策を検討して欲しい。

【武田委員】

- 政策分野4の基本政策「スポーツ振興」について、スポーツ施設は若年者から高齢者まで幅広い世代の方々が利用するため、車を所有していなくても利用しやすいよう、アクセスしやすい位置に設置をすることが重要である。また、文化施設についても同様であるため、その点を踏まえて施策を進めることができればより良いと考える。
- 政策分野2の基本政策「健康づくりの推進」に関連して、高齢者に対して健康づくりのために運動をするようにアナウンスをしている一方で、彼らが積極的に体育館を使用する平日の昼間に体育館で提供されているプログラムがあまり充実していないように感じる。良いプログラムを提供し、尚且つ皆で一緒に取り組むというムードも運動に取り組むに当たって重要な点だと思うので、若い世代、とくに大学生などと連携していくことができればより良いと考える。
- 部活動の地域移行が大きな問題となり、いくらかの種目については大学生が中学生を指導するという対策が取られつつある。スポーツに限ったことではないので、様々な面で大学生の力を借りることが呉市をより良くするのではないかと考える。

【長田委員】

- 政策分野3の基本政策「防災・減災に向けた体制の強化」について、政府が公表した南海トラフ地震の被害想定では地震発生後速やかに7割の住民が退避した場合には、死者を6割程度減らすことができるとされている。ハード面の備えも重要であるが、住民の災害に対する意識を高めるということも重要であり、特に子どもを対象にした防災教育を行うことにより、幼い頃から災害に対する意識を植え付けることが非常に重要ではないかと考える。呉市では西日本豪雨を踏まえて学校防災週間を設けており、その中で様々な防災教育をしていると承知している。自社に対する投書の中には防災意識の高い子どもからの投書も有り、これまでの取組による成果は一定程度現れていると思われることから、引き続き防災教育に力を入れていた

だきたい。

- 山口県内の自治体では、小学校の中・高学年の児童を対象に3日間の講習を行い、講習が終了したあかつきには子ども防災士の認定証を出し、幼い頃からしっかりと防災教育を行っているという事例もあるため、参考までにお伝えする。

【西川委員】

- 小学校から中学校に上がる際に、不登校児についての連携が適切になされず、不登校が解消されないままとなる事例を頻繁に耳にする。現在不登校に係る問題が非常に多いが、なかなか解決の糸口が見えない。そのため、スペシャルサポートルーム（SSR）を早急に全ての小学校・中学校に設置するべきであると考えている。
- “若者”や“若い世代”という言葉が頻繁に出てくるが、それが出産適齢期とイコールの意味で使われているとしたら、比較的高齢で出産される方や、LGBTQの方など、多様な生活をしている方に対する配慮が抜け落ちている印象を受ける。

【信友委員】

- 政策分野4の文化・スポーツ・生涯学習分野について、自身は映画監督として認知症の方を題材とした映画を撮影したのだが、そのおかげで観光地ではない地方の市町へ講演に赴くことが多く、先日、大阪府茨木市にて「おにくる」という施設を訪れた。そこはホールや図書館、子育てサークルが集まるような施設なのだが、ホールを使用する方がリハーサルをするためのスペースや音楽収録設備、研修室など様々な過ごし方をすることができる環境が整っており、多数の学生や若い世代の家族で賑わっていた。元々はシャッター通りだった市の中心部に、市民の要望を集めて作った施設だと聞いた。呉市にもこのような施設ができて欲しいと心から思ったため、是非呉市の方々に視察等を行っていただき、どのように市民の声を集めて施設の整備につなげたのか等聞いてきていただきたい。
- 呉市にも図書館はあるが、Wi-Fiやコンセントがしっかりと整備されておらず、現代の利用者に配慮した整備ができていないとはいえない。若者は恐らく皆そのように思っているだろう。また、民間との連携や、古い民間施設をリノベーションするなど、図書館をより素敵な空間にするために工夫を行っている自治体は多々あるため、呉市においても同様の取組を行い市民の居場所となる図書館を作って欲しい。

【松本委員】

- 政策分野8の行政経営分野について、何年か後には市県民税の申告が電子で行えるようになるかと聞いているが、これについてはしっかりと取り組んでいただきたい。
- 政策分野3の施策「まちづくりへの多様な担い手の確保」についてお話ししたい。自身は自治会の役員をしているのだが、かつては各地区に子ども会があり、夏や冬にはどういったイベントを行うかという話し合いの場が設けられ、子どもたちの親や地域の方々と協力しながら夏祭りなどが開催されていた。しかしながら、今

はそういった取組がなくなったことにより、同じ町内でもどこに誰が住んでいるかも分からない状態であると聞いている。子どもを起点として親や地域の方々を巻き込むことができれば、かつての様なイベント等を開催することにより地域の繋がりが強まるだろうし、何よりそういった取組に子ども達にも参加してもらい、「自分も将来やってみよう」という気持ちを持ってもらうことが、将来の担い手を育てることに繋がるのではないだろうか。

- 政策分野5に女性が働きやすい環境を整備するという趣旨の施策があるが、女性が働きやすい環境がどういったものかを正しく理解していただきたい。例えば、女性が多く参加する会議などを開催する場合には開催時間について配慮するといったことも重要であると考え。男女で同じように仕事をしていても、家事については女性の負担の方が大きいという家庭はまだ多いのだろうし、未だに仕事と家庭どちらを優先するのかという場面は有ると思われる。男女共同参画の推進と併せて、どういったことが女性が働きやすい環境の整備に繋がるのか、しっかりと考えていただきたい。

【山内委員】

- 政策分野1の子育て・教育分野について、資料4の11ページに文化学園大学の学生の協力により休日における部活動講師の派遣を開始とあり、学生がそういった活動に貢献できているというのは喜ばしいことである。教員はこども施設課と連携して呉市子育て研修会を16年、潜在保育士セミナーを8年行っている。保育士は一度現場を離れてから現場に戻る際のハードルがとても高いのだが、研修の甲斐あって昨年度も一人現場に戻ってきていただくことができています。引き続き本学のマンパワーで何らかご協力したいと考えています。
- 2000年当初は呉市に産児救急を行う病院が3カ所あったが、1カ所が閉じ、これから1カ所が閉じるという状況である。妊娠、出産、子育てを充実させることを謳いつつ出産の場所が確保できていない。子育てのスタート地点である妊娠・出産に関するサポートが十分でなければ、呉市で出産をしなくなるという懸念がある。

【若野委員】

- 政策分野1の施策「妊娠・出産・子育てまでの切れ目のない支援」について、国は“はじめの100ヶ月”という言葉を使い、妊娠期から小学校1年生まで切れ目無く良い状態を保つことができるように支援することを推進している。そのためには、子どもをどのように見て、どのように関わりを持つのかという点について、保育所・幼稚園と小学校がしっかりと繋がりを持ち、一体となって取り組むことが重要であると考えている。教育委員会がそういった観点で研修を行っているので、こういったかたちで今後もこの観点を充実させて欲しい。
- 施策「社会全体で子どもと子育て家庭を支える支援」について、現在子ども食堂の数が増え、内容も充実していると認識している。それぞれの地域で広がりを見せていることは大変喜ばしく、今後更に充実して欲しいと考えているため、後

期基本計画においては子ども食堂の充実も盛り込んで欲しい。

- 施策「支援・配慮を必要とする子どもとその家庭への支援」について、年々グレーゾーンの子どもの数が増えているが、一方で呉市の療育に係る体制が足りているのか否かがよく分からない。例えば、肢体不自由のお子さんのリハビリに東広島に行っているという話を聞き、呉市にないのかということを知ると子どもが対象ではないとのことだった。本件に限らず、ちょっと困ったことが発生した場合に呉市内で解決することができるような体制を整えば良いと考える。
- グレーゾーンの子どもの職員がどのように関わっていくか、できることは子どもがやるように促し、一方で難しいことについては優しい言葉をかけつつ支えていく、といった対応をしていけば、それを見ている子ども達は違いを持つ子どもを嫌ったり、仲間はずれにしたりしない土台ができあがり、いじめが少しでも減るのではと考えており、職員と子どもの関わり方はとても大事だと認識している。子どもとコミュニケーションを取る際には、表面的な部分だけではなくその裏側もしっかり読み取るということがどの教育現場においても重要であるため、引き続き後期基本計画期間においても充実させて欲しい。
- 前期基本計画期間において、保育分野においては様々な施策がスタートしている。後期基本計画期間においてはこれらを充実させたいうえで引き続き実施することがとても重要である。

【上田（晴）委員】

- 男女共同参画を推進するに当たっては、男性も子育てや家事の主体であることを認識し、男性が積極的に休暇を取得することや、早めに帰宅することを促すことも重要である。
- 資料2の市民意識調査の結果概要について、呉市の住みやすさが減少している点について残念に感じている。労働組合の仕事に関わっていると、呉市に対して誇りと愛着を持っている呉市出身の役員に会うことが多いが、近年そういった方が減少傾向にあるとも感じている。将来都市像にイキイキと働き、豊かに安心して暮らすというフレーズがあるが、呉を良くしていこうというフレーズがほしい。
- 資料3の57ページについて、政策分野8の「職員・組織の活性化」という基本政策のKPIとして、“仕事にやりがいを感じている職員の割合”が設定されているが、こちらの実績値が目標値と比較して非常に低い。自社は顧客満足度だけではなく、従業員の満足度も上げようという取組をしている。職員の満足度を向上させることが市を良くすることに繋がることを理解し、目標値である80%を達成できるよう施策を見直していただきたい。

【三島委員】

- 昨年度実施した市民意識調査等の結果概要が示されているが、この内容のうち若者を対象とした調査においていくらか気になるポイントがあった。例えば資料2の12ページに記載されている、呉市外へ進学した後に呉市に帰ってこようと思わない理由についてだが、一部の項目においては大きな男女差が生じている。今後、若

者の定着や呼び戻しに関する施策を検討するに当たっては、こういったデータを見たときに、なぜそのような結果が出ているのかといったこともしっかりと分析していただきたい。

- 広島県では若者の定着に向けた様々な調査を行っており、今後呉市としっかりと意見交換をしながら定着に向けた取組を行っていきたいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【渡辺委員】

- 政策分野2の施策「地域福祉の推進」において、“地域福祉計画を策定すること”をKPIとして設定しているが、こちらは前期基本計画を策定した翌年度には策定が完了し、KPIとしては達成しているという状況になっている。この計画は地域福祉の意識醸成や基盤づくりということから支え合う地域づくり、あらゆるサービスの推進、包括的な支援体制の整備、これらを実現するための様々な取組について記載されている。この計画を策定することではなく、この計画に基づいて実施されている施策に関連したKPIを設定した方が良いと考えているため、後期基本計画においてはこういったKPIが適切かということをよく検討していただきたい。
- 政策分野2の基本政策「地域福祉の推進」の施策「地域福祉を支える新たな基盤づくり」について見直しを行うということだが、重層的支援体制整備事業や包括的支援体制については制度も細かく、地域の実情を踏まえて自治体が裁量をもって取り組むことになっている。呉市の重層的支援推進室の取組を指すということは分かるが、現在の文面では新たな基盤づくりに何が含まれているかが不明瞭であると感じる。
- 福祉というのは社会生活がうまくいかなかった時に必要とされる施策である。例えば就労の面でいうと、働きづらい事情があったり、なかなか就労に繋がらなかったり、継続ができない、といった場合には本人に加えその家族も支援することになる。その際、多様な主体がどんな役割を持って取組を進めるのかという点が重要になる。この度の記載は、そういった連携体制や協働体制をどう作っていくかという話だと思うので、是非私も一緒に議論させていただきたい。
- これまでの施策は専門職による支援が中心となっており、ベースになる地域づくり、例えば、近所の人の子がいつもと違うという気づきをきっかけに、問題が小さいうちに相談に繋げていくなど、皆で見守るといった地域づくりができないのかと考えているが、恐らく自治体全域で議論をするのは難しいだろう。地域によって生活の仕方や社会資源の配置にかなり差があり、市街地中心部や山間地域、島嶼部地域など、それぞれの事情を踏まえて小さい地域での取組についても併せて議論していただきたい。

【赤川会長】

- 政策分野5の基本政策「企業誘致・雇用環境の整備」について、複数の委員から雇用や働く場所の整備についてコメントをいただいているが、日本製鉄の広大な跡

地を活用するのであれば、ここに経済効果が高い産業を誘致することが非常に重要であると考えている。市民意識調査においても少子化対策において雇用・収入の安定が重要であると回答している方が4割を超えており、人口戦略にも繋がることだと思うので、しっかりと具体化していただきたい。

【新原市長】

- 今の議題において西川委員から若者という言葉の使い方に配慮するよう話があった。冒頭挨拶の際の、資料4の6ページに記載されている“若者を惹きつけるまちへ”というフレーズがきっかけかと思われる。“若者を惹きつけるまちへ”における若者を指す時期は具体的にいうと5つあるのではないかと思う。まず、①中学校に入る時期、広島にある中高一貫校へ行くなどは当然言えないが、呉がかっこいいまちなので呉の中学校へ行こうと思ってもらいたい。次に②高校に入る時期、呉が若者にとってかっこいいまちであり、広島より呉が魅力的であると思えば、広島の私立高校等ではなく呉の高校に行ってもらえる。次に③大学を選ぶ時期、呉がかっこいいと感じていれば呉から通える大学等に通う、若しくは呉や呉から近い大学等を選び呉に移り住んで呉から通ってくれる。そして、④就職する時期と⑤転職する時期である。こういった進学や就職をする時期に呉に住むこと、働くことを選んでもらえるようにしたいということが“若者を惹きつけるまちへ”という言葉の意味するところである。
- 従って、高校生以下の医療費を助成することや、妊娠したときには丁寧に相談を受けること、不育症や不妊症の補助といったことは資料4の6ページの若者施策の中には入れていない。“子育て世代が安心して生み育てるまち”のための施策はかなり充実していると考えており、子育て世代は資料4の6ページの“若者”の主たる対象とは考えていない。
- ただいま、様々な意見をいただいたが、そのうちかなりの部分は既に前期基本計画に基づき毎年度の予算で事業化を進めている。時間の都合上この場での詳細な説明は省略させていただくが、今後議論を進めていく中でお分かりいただけると思う。

議題2：令和8年度事業に向けた政策提言について

【資料4に基づき、事務局から概要説明】

(1) 委員からの意見・提言等

【長田委員】

- 資料4の38ページに記載されている公園遊具の改善について、自治体によってはインクルーシブ遊具を採用しているのだが、呉市では採用しているのか。もし採用されていない場合には今後検討する余地があるのか、といったことを伺いたい。

【事務局】

- 呉市にある複合遊具の中にも誰でも利用ができるような、インクルーシブの要素を含んだ遊具はある。遊具メーカーのカタログには様々なインクルーシブ遊具が掲載されており、全国的にもインクルーシブ遊具が採用されている状況を踏まえ、呉市での採用を検討していきたい。

【小倉委員】

- 資料4の38ページと39ページに記載されている環境の保全に関する取組に関わることだが、呉市はふるさと納税の返礼品で牡蛎が扱われるなど、牡蛎の産地として非常に有名である。一方で海岸に行くと、牡蛎の養殖パイプや浮きに用いる発泡スチロールなど海洋プラスチックゴミが散乱している。そういったゴミの対応に様々な取組を行っているのは承知しているが、コストはかかるもののそもそも海洋プラスチックゴミを発生させない方法もあると聞いている。例えばそういった取組に対して助成する予算を付けることができるのであれば、世界的に問題となっているプラスチックゴミの対策に寄与するのではと考える。

【事務局】

- ご指摘のとおり、牡蛎養殖の筏に使用している発泡スチロールが流されるケースはあり、業者や市民ボランティアによる海浜清掃にて回収のお手伝いをいただいている。現時点では提案された助成を行う予定はないが、関係部署と連携はさせていただく。

【岡村委員】

- 資料4の30ページに記載されているツーリズムKUREについて、行政からコストの負担や職員の派遣などが行われるが、法人であることを踏まえると行政と比較して一定程度は自由度が求められ、このバランスを上手に取るということが非常に重要である。今年度設立された組織であるが、こういった思想で事業を行っていくかということは早々に決めた方が良いでしょう。

議題3：呉市人口戦略対策について

【資料5に基づき、事務局から概要説明】

(1) 委員からの意見・提言等

【長田委員】

- 人口戦略プランはプランの策定をすれば終わりというものではなく、その後成果のフォローを行い、内容に応じて見直しを行っていくものという理解で良いか。

【事務局】

- まず人口戦略対策本部というのはこの1年限りのものではなく、また、人口戦略プラン自体も後期基本計画の計画期間と同じ5年という期間設定にする予定。出生

数に応じた対応や雇用の創出などについては、状況を踏まえて毎年度しっかりと見直していかなければならないと考えている。

議題4 全体の振り返り

【赤川会長】

- 本日予定されていた議題1から議題3について議論が終わりましたが、最後に全体を通じてご意見があれば発言をお願いします。

【小倉委員】

- 議題1において、Wi-Fiや電源が整備された場所がないという話があったが、呉市の若者がそれらを求めてどこに行っているかというところが大体がマクドナルドである。呉高専の試験が始まるに当たり、学生からは勉強することができる場所が欲しい、休日に学校を開放して欲しいという声を聞くようになった。図書館では会話ができないため、友人と会話をしながら勉強するのが難しいらしい。先ほど信友委員からWi-Fi等が整備された場所があれば良いという意見があったが、そのような場所ができれば、きっと現在マクドナルドで勉強している若者がそこで勉強するようになり、最終的には若者が集う場所になるのではないだろうか。そういった場所ができあがれば、何か新しいことをするために若者の力を借りたいという際に、チラシを配布することなどで協力を促すこともできるのかなと考えている。予算の関係ですぐに実施することは困難かもしれないが、そういった環境を整備することが呉市の活性化につながると考えている。

【新原市長】

- 呉駅前に新しいビルが建ち、その中で「くれくれ・ば」を拓げるが、同じ階のその隣に同じような規模で若者、とくに高校生が集まることのできる場所を作ろうと考えている。市議会より高校生を中心とした若者世代の居場所がないので、是非作って欲しいという話を受けており、入船山のエリアデザインを進めるに当たって、青山クラブの建物については若者の意見を踏まえて若者が使いやすいように整備するよという話も受けている。駅の2階のデッキについてもそういった点を考慮して整備する予定であり、若者がカッコいいと思う呉市にするためにも、若者の集う場を作ることをご優先の課題として考えていきたい。

【三島委員】

- 議題2における政策分野3の市民生活・防災分野のことで発言させていただく。広島県では県内企業などにおいて、特定技能の外国人材受け入れが適正且つ円滑に行われるよう、外国人が県内企業で活躍し、孤立することなく、県民の一人として地域に溶け込んでいただき、安心して生活できる環境を整えるということで、外国人材の受入・共生対策の事業を行っている。今年度から新たな事業として、外国人材の受入企業との連携による、外国人の住宅確保支援であるとか、広島県のポータ

ルサイト“Live in Hiroshima”において利便性向上のためにチャットボット機能を追加することも予定している。

- 呉市においても、生活相談や日本語指導などの取組を行っていると認識しており、前期計画の振り返りにおいても、外国人住民が安心して生活することができるよう、引き続きサポートする必要があることを課題として掲げている。外国人の受入体制の強化についての見直しに当たっては、広島県の施策も参考に検討していただきたい。
- そして、議題2における政策分野6の都市基盤分野のことで発言させていただく。後期基本計画においては、社会を取巻く環境の変化を踏まえ、いくつかの施策について見直しがなされるという認識であるが、その中でも地域公共交通の維持確保に特に着目をしている。前期基本計画が策定された令和3年度と比べると、地域公共交通を取巻く環境は非常に厳しくなっている。後期基本計画に掲げる人口減少対策という観点からも、持続可能な地域公共交通の維持・確保は非常に重要な施策であると考えている。広島県においても、県全体の公共交通マスタープラン、広島県地域公共交通ビジョンを策定しており、呉市においてもこのビジョンと連携しながら地域公共交通計画を策定していただいたところである。この中では、この地域の主導型の交通などの多様な輸送資源も活用しながら取り組むこととされている。そして、呉市の下蒲刈地区において、広島県と呉市が一体となった新たな移動サービスの導入に向けた取組をしているところである。こうした動きをまちづくりや福祉の視点も取り入れながら全市的な取組として進めていくことが今後重要になると考えており、後期基本計画においても、誰もが安全、安心で快適に暮らせる持続可能なまちの実現に向けて、連携して取り組んでいきたい。

【伊藤委員】

- Wi-Fiの整備についていくらか発言があったが、若くて単身の外国人の多くがSIMカードで携帯電話を使っているため、彼らの利便性を高める観点からも、公的な施設におけるWi-Fiの整備を充実させて欲しい。広市民センターを使って教室を開いているが、そこに整備されているWi-Fiは電波が弱く、少し離れると使えないという状況である。公共施設でのWi-Fi整備に当たっては、そういった点にも気を配っていただきたい。

【西川委員】

- 月に2、3回程度しか登校することができない不登校児童の親御さんから、給食費については他の子どもと同額支払っているという話を聞いた。日割り計算をするなどの対応はできないのか。

【事務局】

- 給食については給食当日以前に食材発注のタイミングがあるため、例えば欠席するから今日の給食代は不要にして欲しいと当日朝に言われても対応はしかねる。事前に分かっていたら対応は可能だと思うので、各自で学校に相談をしていただきたい

い。

【上田（純）委員】

- 政策分野1の子育て・教育分野について、同じ呉市内でも学校によって遠足の有無等が異なるという話を聞いたが、子ども達にとっては大事な思い出となるため、通う学校によってそういった機会に差異が生じないようにしていただきたい。
- 政策分野3の市民生活・防災分野について、地域で行う河川の清掃を高齢者が担っているというのが現状なので、そのあたりを認識した上で施策を検討していただきたい。
- 政策分野4におけるアーバンスポーツの整備について、アーバンスポーツの性格を踏まえて、1カ所に大きな施設を作るのではなく、小規模の施設を分散して作った方が良く考えている。

【赤川会長】

- これ以上追加のご意見がないようですので、これで議事を終了させていただきます。

【事務局】

- 本日委員の皆様から様々なご提案、ご意見、活発なご議論をいただき感謝申し上げます。本日の議論を踏まえて後期基本計画の素案作成に取りかからせていただく。

【新原市長】

- 本日は活発なご議論をいただき感謝申し上げます。本日の委員の皆様のご意見をうかがうと、既に実施されている施策で市民の方々に十分に伝わっていないものがかかり有るよう見受けられた。市民の皆さんへの情報発信を更に一生懸命行わなければならないとあらためて思った。引き続きご指導いただきたい。

以上